



第 63 回ブラジル岩手県人会定期総会



2022 年 2 月 20 日（日）午前 10 時、ブラジル岩手県人会会館において、第 63 回定期総会が開催されました。

当地では 2020 年 3 月から自粛令が発令された。多くの国民感染。幸いな事にワクチン接種は高齢者順に行なわれた、だがコロナ感染が 3 年目に入り、感染は下降を辿っているが、会では感染防止に努め、ソーシャルディスタンスを確保し、11 名が対面出席、2 名がオンライン形式での開催。他家族も参加した。

多田マウロ孝則会長は冒頭のあいさつで、県人会はコロナ禍でなかなか活動が出来ないのは残念だと述べ、来年度の総会は皆様に集まっていたいて賑やかな総会になることを期待しています。」と述べました。例年行われている新年会－懇親会は残念ながら昨年度に引き続き中止となりました。

議題の、2021 年事業報告では、1 月 17 日定期総会にて千田会長の退任に伴い多田孝則マウロ氏が新会長に推挙された。3 月 11 日東北 3 県（岩手、宮城、福島）で 2011 年東日本大震災を偲び各県知事や当地県連会長、総領事からも追悼のメッセージを頂き、追悼式をオンラインで行われ母県にも中継された。

4 月初旬、2018 年に開催された県人

会創立 65 周年式典を機に、当会創立からの活動記録や県人移住者名簿家族名を網羅した「あゆみ」を 4 月発行。また、12 月には 2 年ぶりに年末の「餅つき」が行われ 280 袋（500g）を完売。ふるさと図書室は昨年同様一般に利用して頂いた事などが報告された。

また、JICA のニッケイ団体支援事業を申し込み、ふる

さと図書室本棚改修（木製のためシロアリ被害）で金属製に取り換、又 1 階ホール窓際の天井部分もシロアリ被害があり、天井の張替えと共に、多目的部屋の拡充等図った事が報告された。

また、昨年 9 月頃からホールを少人数で開催できる利用者への提供により、活動経費を補える事が出来ました。会計報告では、収支とも R \$ 182,948.84 報告され承認されました。

2022 年度事業計画ではコロナ過ですが一応例年通りの活動計画、予算案は収支 R \$ 154,000.00 を提示し、承認され定期総会を終えた。

総会后、出席者がランチでひと時を歓談交流出来たことが良かったと思います。



2021年度ブラジル 岩手県人会事業報告

はじめに コロナ禍流行2年目も感染自粛により、通常活動が出来ない年度であり、本来の県人会活動が出来ない年でありました。

1月17日 第62回定期総会 通常の前年度事業報告、新年度事業計画・予算案が審議され可決。

役員改選では、22年振りに8代目新会長に多田孝則マウロさんが選出され、バトンタッチされた。(写真右上)



(写真 下) 6代菊地義治会長。7代目千田曠暁会長。

8代目多田マウロ孝則新会長と結束を誓いあった。



3月11日 東日本大震災満10周年犠牲者追悼式を
いわて、宮城、福島で当会会場で行なう。



写真 東日本大震災10周年追悼式が岩手、宮城、福島3県により行なわれた。



**4月 県人会創立60周年・県人移住100周年特別
記念誌「あゆみ」**が3年の歳月をかけ発行された。

内容は 一連のご挨拶や寄稿編、会歴史、創立式典編、県人移住者名簿編と300余ページに纏められた。

9月以降、少人数での会館使用者現れ、小規模でのカラオケダンスー3団体、カラオケ教室2。日本語教室、ボクシング、拳柔術-2、マッサージ、などホール利用者が増えつつある。図書室利用者(2000年6月より開放された)

12月 恒例の餅つきを行う。140キロ(280袋)の餅を完売。大勢のお手伝いを頂く



県人会記念誌「あゆみ」

7月 JICA 日系団体支援事業に参加表明

岩手県人会図書はコロナ読書ファンに多く利用されている事で有名だが、肝心の木製本棚が「白アリ」の被害に合い、おまけに階下ホールの天井梁（木製）まで、食い荒らし改修を迫られていた。

丁度この頃、日本政府機関 JICA から日系団体への支援事業応募の知らせがあり、この機に岩手県人会では所定の事業内容必要性・予算案を添えて申し込んだ。

以前の主要木製本棚。だが実際はボロボロになっていた。



大事な図書も白アリに食われ本の中もボロボロに・・・



支援金は総額の 90%がJICA 援助で、県人会負担10%であった。

結果 図書室木製本棚から金属製（解体組立自己作業）階下の天井張替と2部屋（大小）改装、照明装置などであった。

この支援事業は日系主要大団体へ多くの支援があったようである。また、県人会での参加は岩手、静岡、福島、広島の4県人会だけであったようである。

jica 支援事業 木製はシロアリでずたずた
全図書棚を金属製に取り替える



図書は一世世代の減少で、県人会へ図書寄贈が相次いでいます。場所も狭くどうしましょう？

1 階ホール窓側天井と、改修された天井と部屋



12月17日 1年ぶりに恒例の餅つきを行う。140キロ（280袋）の餅を完売。大勢のお手伝いを頂く



餅搗き風景多くのボランティア・
アチバイアの及川さんから切り花の提供あり





忘れない東日本大震災から11年

早いもので2011年3月11日突如として東日本沿岸部を襲った、大地震と巨大津波により特に岩手・宮城・福島沿岸部は特に大きな被害に見舞われ、これまで確認された死者と行方不明者は、避難生活などで亡くなった「震災関連死」も含めると 2万2207 人に上ります。

河北新報社アンケートによると、東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島3県の計42市町村の首長のうち、復興の進み具合を0～100%の数値で示す「復興度」を「90%以上」と考える割合が全体の約6割（26人）のアンケートで分かった。岩手、宮城両県の大半の首長が復興の総仕上げの段階に入ったとの認識を示した。

遠く離れた同地域出身者で南米に移住した人達は、ふるさとの一時も早い復興を願っているのは筆者だけではないでしょう。

当地の岩手、宮城、福島県人会では昨年は、各県知事や当地総領事、県連代表らに追悼の言葉を頂き式を行ないました。

今年は静かに皆さんでご供養を頂く事を願っております。

今年こそはコロナ感染パンデミックから開放されるか？

3月9日付け伯字報道サイトによると、2年2カ月ぶりに、コロナウイルス・パンデミック宣言から義務付けられていた「マスク」着用を開放空間で義務化しない記者会見でドリア州知事が発表し伯字紙が報じたようです。

日系コロニアでも外出自粛や活動範囲が規制されている中、今後ある程度の活動が県人会単位でも出来る可能性が出てきた。また、日系最大のお祭り「日本まつり」も3年ぶりに開催される可能性があるのでは・・・。

特に日伯間の人的往来も出来ないですが、便利な世の中オンラインにより画像対談など出来る世の中便利と云えば便利だが・・・

但し、様々に緩やかな規制は考えられると思う。もう少し様子を見る必要もあるかも知れない。

協力 当会記念誌「あゆみ」の日本向け送料に役立ててと、当会賛助会員の会から昨年寄付があった事も伝えたいと思います。

ご協力ありがとうございます。

※ 会報カラー版は当会ホームページでご欄下さい